

文芸OGネットワーク通信

〒101-8437 東京都千代田区一ツ橋2-2-1 共立女子大学文芸メディア研究室内 文芸OGネットワーク
Tel & Fax 03-3237-2681 URL www.kyoritsu-wu.ac.jp/bungei
代表 多田久恵 発行：2017.9.23

vol. 27

文芸OGネットワーク総会

平成29年度文芸OGネットワーク総会が6月10日(土)に本館5階501号教室にて開かれ、副代表の川瀬治子氏の司会で滞りなく進められた。参加者は37名であった。昼食、懇談をはさんで、午後1時30分よりサロン講座が開催された。会場には、昨年の共立祭の時のポスター等の一部が展示された。



【定期総会】

- ①代表の高橋京子氏の挨拶の後、会報、劇芸術研修室所蔵の資料整理、共立祭、文芸サロン講座、在学生支援の各担当者から平成28年度の活動報告があった。また、新役員が紹介され、承認された後、それぞれの担当者より平成29年度の活動予定について報告があった。
- ②会計担当者から平成28年度の収支報告と監査報告があった。また、平成29年度予算案が承認された。

③村上智子氏より、会の存続について次のような内容の提案があった。

最近、会員の退会の申し出、役員辞退等が多く、会運営の役員構成が難しくなっている上に、若い人たちの入会も困難である。会員名簿、会計を管理する要員の確保ができず、運営の困難さが浮き彫りになっている。会の今後を考えると、活動を縮小するのも一つの方法で、具体的には、会費を徴収しないで、残された会費を有効に使いながら活動を縮小する方向へ持っていったらどうかと意見が出され、提案書が配られた。さらに、会員から意見を伺って、今年1年間をかけて会の運営について考えていきたいと続けられた。

文芸OG ネットワーク 第8期役員

代 表	多田 久恵	資料整理	多田 久恵
副 代 表	下村 陽子		川瀬 治子
	川瀬 治子	会計・名簿	村上 智子
総 務	川邊 恵	会計監査	加藤 和代
	坂本 和子		清水 秀子
共 立 祭	多田 久恵	ホームページ担当	下村 陽子
会 報	小池 恵巳子		
	酒井 康子		
	大友 佳代子		
	小山 亜希子		

新代表のあいさつ



最近「レガシー」という言葉をよく耳にする。「遺産」「形見」あるいは「過去のデータの蓄積」という意味らしい。人生のある時期を同じ学び舎で過ごし、その後異なる場所、異なる時間に過ごす我々が参加するこの文芸OGネットワークは、それぞれの

思い出、現在のあり方、そして将来への思いなどを交換し、共有する場を提供するものである。おしつけではなく、刺激し合う形でレガシーのバトンタッチの場でありたい、と願っている。

多田久恵 (S 45 院卒)

第14回 文芸サロン講座

今回のサロン講座は「古代史を学ぶための基礎知識」という演題で、佐藤和代さん（古代史研究家・古代丹波歴史研究所会員）にお話をうかがいましたが、佐藤さんが、お話の一部をまとめてくださいました。佐藤さんの考える古代の世界を紹介します。

邪馬台国畿内説に比定されている纏向^{マキムク}には日本側の正史・日本書紀にもう一つの歴史が存在する。崇神天皇^{スズノ}の項である。

今回は崇神から不比等出現まで大王家を支えた外戚等豪族別に区分けしてみた。

- ・大和^{ヤマト}：崇神天皇——母方が息長氏^{オキナガ}。共立体制から崇神天皇の一強体制になった。
垂仁天皇^{スズニ}～仲哀天皇^{チュウアイ}——垂仁天皇から仲哀天皇までは丹波が隆盛。
- ・河内^{カワチ}：応神天皇^{オウジン}～持統天皇^{ジツク}——応神天皇によって経済的基盤が丹波から敦賀へ移行。

崇神天皇の初期纏向^{マキムク}は、出雲、吉備、鳥取、丹波、北陸、東海等々の豪族が集まって共立政治を行い、その中心に孝靈天皇の皇女・倭迹迹日百襲媛を鬼道・道教の巫女として据えた。卑弥呼を彷彿とさせるが、邪馬台国と違うのは、①そこが極めて人工的な都市であること、②国や人の名が違うこと、③名前に卑字が使われていないこと、④戦乱の跡が見られないこと、⑤中国の影響を感じさせる文物の出土が未だに見られないこと等がある。

政変を起こしたのは崇神天皇で、武埴安彦^{タケハニヤスヒコ}、百襲媛^{モモソヒメ}を退け、大和朝廷の御肇国天皇^{ハツケニシラスメラミコト}となる。これ以前、疫病が国中に蔓延してどうにもならなくなった時、崇神天皇は自身の宮床の三神（大物主神^{ミヤドコ}、倭大国魂神^{オオモノヌシノミコト}、天照大神^{ヤマトオオクニタマノミコト}）を宮殿の外に出し、それぞれの直系の子孫（男系男子の血筋）に祀らせることで鎮静化を計っている。垂仁天皇の時、天照大神を伊勢に祀ることになり、国の形が、共立体制・道教から大和朝廷・神道へと移行した。

我が国の精神風土は太陽を拜む自然神崇拜から道教→神道→神道・仏教へと変遷してきた。本来の意味は違っているが、道教に関する言葉は現在でも我々の身近に溢れている。道を極める。徳を積む。道徳。神道。武道。書道等の習い事……。風水。鬼。不老不死。崇り神。陰陽（師）等々きりが無い。

古代は我々が思う程遠い存在ではないのかもしれない。

佐藤和代（S41卒）

「KALECO プロジェクト」について

KALECOとはKyoritsu Active Learning Experience for Collaborative Communicationの略。

2015年度より大学で新しい講座「KALECOプロジェクト」が始まったことをご存じだろうか。きっかけは、「演劇教養の専門コース（文芸学部劇芸術コース）のみならず、被服やデザインなど舞台に関連する学科を多く擁し、また劇場としての実績を持つ「共立講堂」を併設する本学の環境を活用して、演劇によるアクティブ・ラーニングができないかという着想」（KALECOプロジェクト代表・村井華代教授）であったという。演劇は、その人間の興味、性格、適性などによってかわる場がそれぞれ与えられる集団活動である。このプロジェクトのすばらしさは（同時にそれは教える側の難しさに直結することでもあるのだろう）、全学（家政、文芸、国際、看護学部、生活科学科、文科）の学生が履修できる授業であるということだ。演劇はまさにうってつけの教育素材といえよう。

上演した戯曲はメーテルリンク作『青い鳥』。演技、演出、制作、舞台美術など外部の専門家アドバイザーの指導を仰いでいるが、スタートから公演まですべて学生

主体を貫いているという。1年目は履修者が110名の大所帯、2年目は履修者の8割が1年生であったそうであるから、学生も教員も抱えた荷は重かったことであろう。上演の成果が第一目標ではなく、そこに至るまでの試練とそれを乗り越える経験こそが、この授業から得られる宝であるだろうが、第1回、第2回の公演ともに感動をあたえるものであった。

OGネットワークの活動の一つに「在学生支援」がある。今年は11月25日（土）、26日（日）に第3回公演が行われるが、公演を観ることによって支援の輪に加わりたいと考えている。

【公演日時】11月25日（土）17:00
開演、26日（日）15:00開演（開場は開演30分前）

【会場】共立講堂（入場無料・予約不要）詳細はHPをご覧ください。

多田久恵（S45院卒）





女性の自立と社会的地位向上をめざす建学精神のもと、昨年130周年を迎えた共立女子学園。学び舎を巣立ったあと、仕事や家庭、地域など社会の様々なシーンで共立 spirit を放っているOGを紹介していきます。

file3 佐川美智子

Michiko Sagawa

第3回目のゲストは、佐川美智子さん (S51卒) をお迎えしました。造形芸術コースのご出身で卒業後は早稲田大学の大学院に進まれ、ドイツ美術史を学ばれました。その後、版画を専門とする美術館で学芸員としてキャリアを積み、副館長も務められた佐川さん。そのヒストリーを聞かせていただきました。

—大学時代はどんな学生生活を過ごされておりましたか？

大学の4年間は、制作に力を注ぎ、結構な量の油絵を描いていました。美術部にも所属していたので、授業でも部活でも、とにかく“描いている”という印象ですね。彫塑などもやりました。市川和子先生に習っていたんですよ。ですが、とにかく難しくて。そうこうしているうちに、徐々に制作への関心は薄れていき、色々と考えを巡らせているなかで美術史をもっと勉強してみたいという思いが強くなってきました。

—卒業後は、早稲田の大学院に進まれたのですよね。

卒業後すぐにはではなく、アルバイトをしながらドイツ語の勉強をし、2年後に早稲田の大学院に入りました。

進路についてはそれまで何度か友部直先生のもとへ相談に伺いました。そのたびに、親身になって話を聞いてくださり、「あなたがたは何かしたいけど、何をしたいかわからないというのが現状。何かしたいにしても、“私はこれができます”というものがなければ世間の人には認めてくれないし、今のままでは何もできないのですよ」などと的確なアドバイスをくださいました。本当に感謝しています。

—ところで、なぜドイツ語を勉強されたのですか？

これも友部先生からのアドバイスなのですが、「語学は真剣にやりなさい、売り物になるから」と。当時の私は、英語もフランス語も中途半端でしたから、「どうせならゼロから始めるものにしなさい、そしてやるなら徹底的に」と仰って。通った語学学校が音楽や法律を勉強している方が留学のために通う厳しいスクールで、おかげで、あっという間にしゃべれるようになりました。2年くらい勉強しているうちに、語学はかなりできるようになったので、再び友部先生のところへ伺うと、「大学院を受けてごらんください」と進めてくださいました。当時、美術史を学べる大学は限られていましたので、早稲田を受けて、無事合格いたしました。あとで考えたら、西洋美術史を学ぶには、やはり語学が重要だったように思います。同期でスペイン美術専攻の人は、外語大のスペイン語学科出身でしたし。私はドイツ語を勉強してきたので、必然的にドイツの美術を研究テーマに選びました。

—友部先生もお喜びになったのでは。

ええ、早稲田に受かったといったら、とても喜んで

くださいました。その後、博士課程に進んだのですが、その時もすごく喜んでくださって。「ぼくが最近聞いたニュースのなかで一番うれしいな」と仰って。

—その後、美術館に勤務されたそうですが…

博士課程在学中の1982年か83年頃でしたか、町田市立国際版画美術館（オープンは1987年）立ち上げの時期に「ドイツの古い版画を扱いたいのので来てほしい」と声をかけていただき、1985年に採用試験に合格して開設準備室に入りました。大学卒業後からドイツ語を習得するのに2年、修士4年、博士3年を経ていますので、美術館に学芸員として就職したのは31歳の時でした。以後、様々な仕事に携わりました。印象深い企画展もたくさんあります。特に一つあげるとすれば、＜ダンテ『神曲』の旅＞という展覧会です。『神曲』からインスパイアされて描かれた美術作品は、世界中にたくさん残されていて、日本国内にも挿絵本があったり、ダリも描いていたり…。この企画展はとても評判がよく多くのお客様に見ていただくことができました。

—副館長になられてからは、いかがでしたか。

管理職になるということは、専門職ではなくなるので、昇級試験を受けるかどうか悩みました。まったく畑違いの業務に変わるわけですから。しかも館長は非常勤、特別職なため、実質、副館長は現場のトップです。定年までの3年間でしたが、これはもう本当に大変でした。市の条例や国の法律に合致しないものは、どんなにいい提言、提案でも通りません。条例なり法律を変えない限り、何も動かない。ただ一方で、それを動かしていく方法があることも知り、行政の仕組みも実践を通して理解しました。私は現在、大学で学芸員資格課程や美術史の講義をしているんですが、特に博物館経営論などを教える際に大いに役立っています。

—最後に後輩へのメッセージをお願いします。

大学生活は、その4年間にしかできないことをする解放区のようなものだと思うんです。今の時代、事情が様々あるかとは思いますが、目的だけに縛られるのではなく、大学生ならではの自由を満喫するような学生生活を送ってほしいですね。

—今日はどうもありがとうございました。

聞き手 高橋京子 (H元卒)

連載 私の学生時代 — 文芸学部で学んだ日々⑬ —

今回は、第21期生の大浦和子さんに大学時代の思い出の数々を書いていただきました。

昨年、一昨年と「私の学生時代」を読み返し、改めて先輩方は立派な学生時代を過ごされたのだなとため息をついた。昨年の石井先輩は同じ英文卒で文面に小川和夫先生の記述があった。私も小川先生には Keats の詩を教わったが、最初 Keats って Keat の複数? と思ったほどの無知。それでも結果的に唯一「秀」をいただけて嬉しかった。

OG ネット元会長の稲見さんはその頃助手をされていて当時から優しいお人柄だった。出席カードを配る稲見さんに代筆を頼まれた仲間の分までビクビクしながら2枚目をもらいに行った。一度もバレたことはなかったが稲見さんは本当はご存じだったかも知れない。どうであれ結果からすれば、もうとっくに時効ですね!

4年次に日本語ではあったけれど生意気にも卒論の方を選び、結果は惨敗の「可」だった。OG ネットでも腐れ縁を切らずにいてくれる恩田さん、相澤さんは卒論の口述試問でもいっしょだった。本番私は入江先生と朱牟

田先生の前で「お助け下さいませ」の気分であったと思うが、今も記憶にあるのは入江先生のひと言……「完璧の壁は壁ではなく壁です」。22年間? 完璧に〈完璧〉を間違えていたことを知り愕然とした。今のようにパソコンであれば悪筆も気にならず誤字もなかったろうに……。とはいえ、中身が小学生の感想文程度のシロモノだったからどうしようもない。

それでも卒業はできたし、試問の後、控室で記念に撮った写真が仲人によって夫の母の手に渡り、今こうしてノンキに暮らしている。共立での間抜けた4年間のすべてが感謝のみの結果オーライです!

大浦 和子 (S52 卒)



広場

地唄舞の公演や指導をされている辻村一美(閑崎ひで佳)さん(S48卒)が今年1月9日に行われた「世界舞踊祭2017」(運動記号研究会主催、平成28年度港区文化芸術サポート事業助成)のコンクール部門において、地唄舞「茶音頭」の演技で新人賞を受賞されました。

スタッフ募集

会の運営にお力を貸して下さる方はいませんか。できる範囲でご協力をいただければありがたいです。ぜひご連絡ください。

ご意見・アイデア募集

これからのOGネットのあり方について、忌憚のないご意見をぜひお寄せください。また、会の運営についてお気づきの点、会を存続するためのアイデアなどありましたら、メールでも、お葉書でもお知らせください。お待ちしております。

掲示板

INFORMATION

共立祭参加

展示とバザーを開催します。

日 時：2017年10月14日(土)、15日(日)
展示室：共立女子大学2号館5階グループ室5・6
展 示：「文学座」展 ～創立80周年を迎えて～

バザーの品をご提供くださる場合は、10月3日(火)か10月10日(火)14時から16時に、下記宛にお送りくださいますようお願い申し上げます。

101-0051 千代田区神田神保町3-27
共立女子大学3号館 大学院棟5階
演劇資料室(OGネット) 多田久恵宛
(携帯 090-9140-3494)

編集後記

EDITOR'S NOTE

長年、会の運営に携わってこられた代表や役員が退かれたが、今期初めて役員になった方も2人いて心強い。総会ではOGネットの将来について提案があり、会の今後を考えるよい機会となった。会員の高齢化が進み、入会する人がいなければ会の存続が危ぶまれる。会員が増えないのは会の存在を知らないだけかもしれないし、知っていても入会が困難な事情もあるだろう。入会はいくらでも自身の考えで、卒業しても人とつながりを持っていたいという気持ちが尊いのだと思う。総会やサロン講座に来られる会員より、神保町まで足を運ばない会員のほうが多い。この「通信」が会員の手元へ届けられ、会員相互のつながりの場としての役割が果たせればと願っている。(K)